

紀南病院広報誌

第15号

平成21年1月

つながり

病院スローガン(20年10月～) あいさつから始めましょう

'09くまの駅伝 Team紀南病院組合



<撮影：岡本友則・竹田ひとみ・川村由紀子>

■病院理念

優しく、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

■基本方針

- 1、サービス精神(KINAN)の徹底 (K) 気持ちをこめて、(I) いつまでも、(N) 納得のいく、(A) 安心で安全な、(N) 任務の遂行
- 2、患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
- 3、生活の質(QOL:quality of life)を中心とした診療と援助
- 4、行政や医師会と協同した地域医療の向上(救急医療、高齢者医療、健診、地域連携、福祉など)
- 5、職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
- 6、職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供

じんましんについて

皮膚科医長
嶋 聡子



皮膚科の病気というと、まず水虫やかぶれが思い浮かぶ方が多いと思います。

当院でもたくさんの患者さんが受診され、疾患も多岐にわたっています。自己免疫疾患（膠原病など）や湿疹群（アトピー性皮膚炎など）、細菌、真菌などの感染症、熱傷（やけど）、慢性皮膚疾患等々です。その中でも、比較的多くの方が罹患され、受診される方も多い「じんましん」について簡単にまとめました。

■ じんましんとは？

突然、皮膚にできるかゆみをともなう赤い（ときには白い）蚊にかまれたようなふくらみ（膨疹といいます）のことで。大きさは様々ですが、掻くとどんどん広がります。普通は、数時間もすれば消えていきますが、違う部分からまた新たなものが出たりします。目の周りや口唇にできることもあります。一般には、人口の15～20%が一生のうちで一度は経験するといわれています。

■ じんましんの起こるメカニズム

じんましんは、皮膚や粘膜のやや深い部分にできる水ぶくれで、血管の中を流れている血液の液体成分が血管の外にあふれ出てくるために起こります。このとき関連する物質のひとつがヒスタミンというもので、神経を刺激してかゆみを惹き起こします。じんましんは、このヒスタミンかあるいはその類似物質によって起こされることがほとんどです。ヒスタミンはアレルギー反応の結果として出てくる場合と、そうでない場合、たとえば物理的刺激などの原因で放出されます。

■ じんましんの原因について

食物では、卵、牛乳、チーズ、エビ、カニ、貝、さばなどの背の青い魚、そば、チョコレート、ナッツ類などがアレルギー性のじんましんを起こしやすいと言われています。合成着色料、保存料などの食品添加物も原因となり、盲点となっていることがあります。タケノコやレンコンなどは仮性アレルギー物質といって、ヒスタミンやコリンといった、直接じんましんを起こす物質を含んでいるため、アレルギー反応によらずじんましんを起こします。その他、日光、熱、汗、寒冷、運動、精神的ストレス、動物の毛、昆虫、金属、化学物質、薬、物理的刺激（引っかく、圧迫、接触など）、細菌やウイルス感染など、ありとあらゆるものがじんましんの原因となります。急性のじんましんは、原因があってから、1時間以内に出ることが多いので、その直前に何を食べたか、何をしたか、何を触ったか、どこに行ったかなどを考えると原因に思い当たることがあります。しかし、残念ながら、原因が分からないことが大半です。また同じ原因があっても、必ずしも毎回じんましんが出るとは限りません。体調の悪いとき、特に下痢をしているときなどは出やすくなります。原因不明の慢性じんましんの一部は、自分自身の体のどこかに対してアレルギー反応を起こしているのではないかと考えられています。

■ じんましんの治療

もし、原因が分かりましたら、再発を避けるために可能な限りそれを避けることです。軽いじんましんは抗アレルギー剤や抗ヒスタミン剤の内服で軽快します。眠くなることがありますが、しばらく飲んだほうがよいでしょう。最近開発された薬剤は、眠気が少なくなっています。重症のじんましんはステロイドの注射をしたりします。できるだけ、掻かないで、冷やすなどしてください。

■ 危険なじんましん

最も危険なものは、喉頭浮腫といって気管の入り口の粘膜が腫れるタイプです。急に起こると、一気に窒息してしまうこともありますので大変危険です。気管支の粘膜が腫れると喘息の症状が出ます。また腸の粘膜が腫れると、下痢、腹痛、嘔吐などの腹部の症状が出ます。これらの症状がでる場合はショック状態（アナフィラキシー）となる場合があります。これらは非常に危険な状態ですので一刻の猶予もありません。この場合は、治療としては点滴で補液し、ステロイドの注射などを行います。最近、アナフィラキシーを起こしてしまった場合の緊急処置として、エピネフリンの自己注射（エピペン）が日本でも使用可能となりました。

お世話になりました

耳鼻咽喉科 松浦 徹
内 科 松浦りつ子



平成15年4月1日に耳鼻咽喉科医、同年7月1日に内科医として、夫婦で紀南病院に勤務させていただき、耳鼻咽喉科は5年6ヶ月、内科は5年4ヶ月の間お世話になりました。

紀南病院では、耳鼻咽喉科は、月曜から金曜の午前中は、一般外来、月・水・金の午後は小児を予約制で診察しておりました。毎年4月から6月にかけては、紀伊長島から成川までの小学校・中学校・高校の学校健診を行うために、やむなく外来を休診することになりご迷惑をおかけすることもありました。

内科は月曜日から水曜日は一般外来、木曜日・金曜日は血液透析室の回診を行っておりました。

院長先生、副院長先生をはじめ、心強いたくさんの先生のもとで、素晴らしいスタッフとともに5年以上もの間仕事をさせていただき感謝しております。たくさんのことを学ばせていただき、本当にありがとうございました。

医師不足が深刻な時期で心苦しかったのですが、学生時代からの夢であり、また当地方に帰郷を決意した時から、夢を実現したいという思いを膨らませておりました。平成20年11月5日たくさんの方の暖かい協力のもと、夫婦一緒にJR神志山駅前に「まつうらクリニック（耳鼻咽喉科・内科）」を開院させていただきました。診療時間は、耳鼻咽喉科は午前・午後ともに診察を行います、内科は家庭の事情にて午前のみの診察とさせていただいております。

また診察日は月・火・水・金・土曜日とし、木曜日はクリニックを休診して、耳鼻咽喉科医は紀南病院の耳鼻咽喉科外来、内科医は血液透析室の回診を行わせていただいております。微力ですが紀南病院のお手伝いをさせていただいております。

平成20年7月に亡くなった母（田中医院：田中五味）は、私達の開院をとっても楽しみにしておりました。生前にクリニックを見せてあげることができなかったことが悔やまれますが、すこしでも亡くなった母の“医療に対する志”を引き継ぐことができるように、夫婦助け合いながら努力していく所存であります。

まだまだ夫婦ともども未熟者で、皆様にはご迷惑をお掛けするかとは思いますが、暖かい御支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

研修医だより

平成16年度から、新しく医師になる制度が変わり、今まで大学病院でそのまま研修をおこなっていた新卒の医師が自由に研修する病院を選べるようになりました。大学は、研修医が残らなくなったため人員不足となり、派遣している地方の病院から医師を引き揚げ、このことが原因で地方の医師不足がおこっているといわれています。各病院は、この研修医を確保するため、さまざまな取り組みをおこなっています。紀南病院も研修医の確保をテーマに努力し、独自の取り組みを行っています。今回から「研修医だより」として、その取り組みや、トピックス、研修医の紹介などをさせていただきます。

「新鹿の健康教室におじゃましました！」



12月17日(水)、熊野市新鹿地区で行われました保健師さんによる健康教室に当院で地域医療研修を行った市立四日市病院の西永侑子先生が参加しました。住民の方8名の方が参加され、日頃の健康に対する悩みや、薬に対する疑問、地域での暮らしに関することなどをざっくばらんに話し合いました。研修医にとっては地域医療を学ぶ大変よい経験となります。今後も各地区へおじゃまさせていただきますので、皆様よろしくお願い致します。

専門外来先生紹介

糖尿病専門外来 住田 安弘(すみだやすひろ)先生

(三重大学病院糖尿病内分泌内科副科長・講師・病院教授)



＜座右銘＞ 全力投球

＜趣味＞ 切手収集、旅行、音楽、カメラ

＜紀南地域についての印象をお聞かせください＞

30年ほど前から何度も来ています。日当直の応援が主でした。午前中外来診察、午後は甫母や浅里に巡回診療に行ったのも思い出です。私は三重大の第3内科ですので、先輩や同僚には紀南病院へ赴任する医師がたくさんいました。その後、1999年（平成11年）から御浜町の糖尿病健診にも関わっています。

＜紀南地域の糖尿病患者さんに特徴的なことがありますでしょうか＞

紀南地域に特別なことではありませんが、通院のアクセスが悪い場所に住んでいる患者さんが糖尿病を悪化させる傾向があります。糖尿病が軽度のうちは、自覚症状が少ないので、通院にかかる労力・費用が大きい場合、どうしても受診を怠りがちで、重症化させてしまうことが多いのです。紀北町や津市や松阪市でも、交通アクセスの悪い場所に住む患者さんには、そのような傾向が見られています。

＜最後に、糖尿病について我々一人ひとりが心がけるべきことを教えてください＞

糖尿病がどんな病気、ほっておくとどうなるのかを知ることです。高血糖を放置すると、合併症が出現します。それは主に眼、腎臓、神経を障害し、失明や人工透析、下肢切断などに至ることもあります。肥満、運動不足、ストレスなどが主な発病因子ですので、ご自分の生活習慣を省みてください。また、すすんで健診を受けて、異常があれば受診することです。

参考までに糖尿病発症リスクを表にまとめましたので、ご自分の危険度を評価してみてください。

糖尿病

以下の項目の合計が【70点以上】は危険信号

- 1、家族に糖尿病の人がいる。【30】
- 2、最近太ってきた。または現在太っている。【10】
- 3、運動不足であると感じている。【10】
- 4、うなぎ、肉や中華など脂っこいものが大好き。【10】
- 5、最近甘いものをたくさん食べたくなる。【10】
- 6、空腹感が強く、食べたくてもしょうがない。【20】
- 7、＜女性の場合＞体重が4,000 g以上の児を出産したことがある。【20】
- 8、＜女性の場合＞妊娠時、一時的に尿糖が出たり、軽い糖尿病と言われた。【20】
- 9、健診で尿糖を指摘されたことがある。【10】
- 10、医師から「糖尿病の気（け）がある」とか「糖尿病予備軍（境界領域）」と言われたことがある。【30】
- 11、40歳以上である。【10】

議長が下田氏に ― 紀南病院組合議会 平成19年度決算2億4千万円の赤字

去る9月29日、紀南病院組合の定例議会が開催され、新議長に熊野市選出の下田克彦氏が選出されました。

この議会では、レントゲン関係の備品購入費等26,000千円の補正予算が可決されました。平成19年度の決算は、総事業収益4,161,822千円、総事業費用4,399,107千円、差引純損失237,285千円の報告があり、承認されました。この内訳は、病院会計が275,391千円の赤字、きなん苑会計が38,106千円の黒字となっています。この数値は平成18年度と比較して、赤字が27,931千円増加しています。この主な原因は、脳神経外科医師、神経内科医師、計4名の引き揚げ等によるものです。患者数を前年比すると外来で4.3%の減、入院で7.9%の減となっています。

全国的に医師不足の厳しい状況ですが、病院としましては、今後も引き続き医師確保、診療科の充実にも努めることとしています。

栄養室紹介

栄養室は管理栄養士2名、事務1名、委託職員22名で構成されています。仕事を大きく分けると、栄養指導、栄養管理、給食管理に分けられます。

栄養指導は、医師からの指示に基づき、患者様にわかりやすく説明するように心がけています。集団栄養指導では、年に4回糖尿病教室を行っています。この教室には、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、検査技師、栄養士等様々な職種で糖尿病についてのお話をを行っています。興味ある方はぜひご参加ください。

食事は健康を守る上で非常に大切なものであり、また楽しみでもあると思います。患者様に合わせた食事提供をするために日々献立の工夫を行い、皆様に「おいしかったよー」といわれる食事を提供していきたいと思っています。また、食べ物のことについてなにか疑問がありましたらお気軽にご相談ください。



クリスマスコンサート

(12月16日)



今回も紀南高校ブラスバンド部に来院いただき、患者さんたちと楽しい時間をすごしました。紀南病院コーラス部が前座を務めました。



外来診療担当表

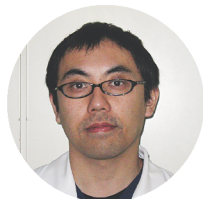
平成21年2月2日現在

区 分		月	火	水	木	金
内 科	午前	1診(初診) (第1~2週) 瀬口 優医師 (第3~4週) 中川 十夢医師	小林 文人医長	杉本 龍亮医師	武田 裕子医師	浦吉 俊輔医師
		2診(初診)				
		3診(再診)		西久保公映副院長	中川 十夢医師 瀬口 優医師	杉本 龍亮医師
		4診(再診)	小林 文人医長	浦吉 俊輔医師	鈴木 光哉医長	關 めぐみ医師
	午後	3診(再診)		鈴木 光哉医長	西久保公映副院長	糖尿病専門外来(月1回)
		4診(再診)	西久保公映副院長		尾辻 典子医師	循環器専門外来(月1回)
外 科	1 診	乳腺専門外来(月1回)	須崎 真副院長	野口 孝院長	野口 孝院長	須崎 真副院長
	2 診	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	藤井 武宏医師	藤井 武宏医師
整 形 外 科	1 診	植村 和司医長	倉田 竜也医師	植村 和司医長		倉田 竜也医師
	2 診	倉田 竜也医師	植村 和司医長	倉田 竜也医師	里中 東彦医師	植村 和司医長
脳神経外科	1 診					仲尾貢二医師(午後) 種村浩医師(午後)
眼 科	1 診	山田 敦医長 (第1・第3 休診)	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長
産 婦 人 科	1 診	葛西 普一医長	葛西 普一医長	關 義長医長	葛西 普一医長	關 義長医長
小 児 科	1 診	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長		鈴木 幹啓医長
皮 膚 科	1 診	嶋 聡子医長		嶋 聡子医長		嶋 聡子医長
神 経 内 科	1 診					木田 博隆医師 谷口 彰医師 成田 有吾医師
泌 尿 器 科	1 診			堀靖英医師(午後)		
耳 鼻 咽 喉 科	1 診				松浦徹医師(午前)	
歯科口腔外科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長
備 考	1. 受付時間は午前7時30分～午前11時30分までとなっております。ただし急患については時間外でも受付します。 なお当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前8時からとなります。 2. 神経内科・脳神経外科は予約制となっております。 3. 眼科は第1・第3月曜日は休診となります。 4. 小児科は木曜日が休診です。 5. 泌尿器科受診には、原則として紹介状が必要です。予約も必要です(地域連携室まで)。					

新しく着任された先生

外科医師

ふじ い たけひろ
藤井 武宏 先生



●略歴

三重大学医学部卒、紀南病院に来る前は松阪中央総合病院で勤務していました。

●趣味

スキー、スキューバダイビング etc

●医師を志した理由

一生を通じてやり甲斐を持てる職業を求めて。

●医学部へ入るにはどのようなことが必要だと思いますか。

モチベーションとそれを持続させる力。

●抱負

1日でも早くこの地域みなさんに馴染み、お役に立てる様、一生懸命頑張りたいと思います。

病院ギャラリー紹介

内山 早苗さん

押し絵 つまみ絵ギャラリー

内山さんは、30年前に四日市で押し絵、つまみ絵を学ばれ、現在では尾鷲の皆さんを中心に定期的に指導してみえます。紀南病院には四季折々の作品を新館5階のサンルームにて展示していただいておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

